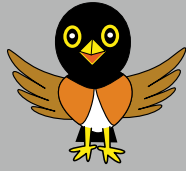


こっこめ通信 02 2019

「数が問題です」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

寒波が南下した1月26日から27日にかけて、八丈島でも雪が降りました。朝起きて八丈富士を見るとうっすらと雪化粧をしていました。また、空気が澄んでいたため八丈富士からは伊豆諸島の島々や駿河の富士がハッキリと見えました。その様子はホームページ「最近の話題」でも紹介しています。是非ご覧下さい！

さて、今回は「なんだか鳥が少ない？」と「講演会『八丈島の外来種問題を考える』」についてのお話です。

なんだか鳥が少ない？

八丈島に渡ってくる鳥の種類や数は年によって大きな違いがあります。特に春の北上よりも秋から冬にかけて南下する鳥は顕著に違いが現れます。今シーズンの南下は、種類・数共にビックリするほど少なくなっています。

秋の渡り始めに確認できたタヒバリやムナグロも早々に島から旅立ち、越冬している個体が非常に少ないです。(例年はたくさんいますが)。ウミネコやオオセグロカモメなどのカモメ類の出足も悪く、1月25日現在、漁港内に数羽いる程度です。また、こっこめ通信2018年12月号で今年が多いと紹介したオオバンやバンもいなくなり、漁港にオオバンが2羽残っているだけとなっています。テトラポットや岩場にいるウミウも少ないのです。

そんな中、久しぶりに渡ってきたのがコハクチョウの若鳥。1月19日に八丈富士の中央火口丘の池に降り立った姿を観光でいらした藤井剛さんが撮影し、情報を寄せてくれました。とても素敵な写真でした！コハクチョウの若鳥は1月2日から18日まで三宅島でも確認されていたので南下してきたのでしょうか？しかし、残念ながら25日に鴨川下流で元気のないコハクチョウの若鳥が確認されています。この3羽が同一個体かは分かりませんが、同一個体である確率は高そうです。さらには八重根漁港のスロープでオオバンと仲良く食事をしているコクガンも確認されています。この冬のトピックスは残念ながらこのふたつだけになっています。

この冬は1年を通して島にいる留鳥もいつもいるはずの場所で姿が見られない種もあります。例年とは違う行動パターンなののでしょうか？また、この季節ならではのヤブツバキやキダチアロエの花粉でお化粧したシチトウメジロもまだ見てません。一体どうなってしまったのでしょうか？



ビジターセンターでの過去の記録 (1997～)

コハクチョウ	コクガン (全て1羽)
1997/11/27 上空に6羽	1998/10/23 八重根漁港
2001/12/14 底土海岸 成鳥1羽	1999/11/04 神湊漁港
2006/12/19 底土 成鳥1羽	2000/12/10 底土海岸
2007/10/19 植物公園 成鳥2羽	2005/12/26 神湊漁港
2010/10/23 底土 家族? 成鳥2羽、若鳥2羽	2007/12/02 八重根漁港
2013/10/28 和泉親水公園 成鳥1羽	2010/01/01 八重根漁港
2019/01/19 八丈富士山頂の池 若鳥1羽	2015/01/18 八重根漁港
	2019/01/15 八重根漁港

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科(旧ツグミ科)の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

講演会「八丈島の外来種問題を考える」

1月12日、島の生態系の保全と外来種の管理に関する研究が専門の東邦大学教授の長谷川雅美さんを講師にお招きして、講演会「八丈島の外来種問題を考える」を開催しました。島内各所へのポスター掲示が遅れてしまいましたが、49名もの参加があり、島民の外来種に関する問題意識が強いように感じました。

講演会は、「生物進化の歴史」「地理的条件と生物進化によって育まれた独自の生態系」「生態系の保全と再生に依拠した地域社会の将来」に分けられて話が進んでいきました。

まずは伊豆諸島の成り立ちと独特な生態系について。伊豆半島はフィリピン海プレート上にあった島でプレートの移動により本州と衝突し、その衝突によってさらに新しい火山島（伊豆諸島の島々）ができる。何もいなかった島に本土から生きもの達が渡ってきて、それぞれの島ごとに進化がおこった。シマヘビ（八丈島にはいない）は島ごとに色彩パターンの分化や頭部形態の分化などがおきているそうです。また、八丈島のノコギリクワガタは、飛ばずに地面を歩き、脚が長くなっている。他にも花が小さくなったホタルブクロ、タラノキの棘、オカダトカゲの尾の色などの違いもあります。八丈島にいるいろいろな生きものの固有性は、それぞれ独立にやってきた生きものが八丈島で進化しているので、かけがえのない存在である。

伊豆諸島における外来種問題（八丈島以外も含め）

意図的な導入

・農林業対策（イタチ）
・観光振興（タイワンリス・タイワンサル・キョン・シカなど）
・学校教材（カエル・タンポポなど）

非意図的な導入

サツマゴキブリ・ニホントカゲ・サソリモドキ・ヤンバルトサカヤスデ・アマクサギなど

そして伊豆諸島の外来種のお話。伊豆諸島ではいろいろな経緯で外来種が入ってしまった（上表）。八丈島では意図的なイタチの導入によってアカコッコやオカダトカゲが激減してしまった。さらに、オカダトカゲはニホントカゲが入り込んだことにより、イタチに抵抗力のあるニホントカゲへと置き換わり、ニホントカゲとの交雑やイタチの捕食圧で激減が促進されることも懸念されている。また、サツマゴキブリなどはイタチの餌資源としてイタチの増大を支えてしまっている面もあるそうです。

意識されていないが島間での外来種の移動も大きな問題となっている。すでに八丈島から三宅島や御蔵島に移動してしまっている外来種も確認されているそうです。

そして入ってしまった外来種に対しては、島自体が外来種を制圧できる事もあるのではないかと？外来種のヤンバルトサカヤスデが増えたのは捕食者が少なくなっただけが要因のひとつかもしれない。イタチのいない島は捕食者となる鳥や爬虫類も多いので、もしイタチを駆除できれば状態が変わるかもしれない。イタチを根絶できれば、八丈小島のようにクロアシアホウドリなどの海鳥が八丈島で繁殖するかもしれない。（現に八丈島ではイタチが導入される前には海鳥のオオミズナギドリが繁殖していた）

「奄美大島ではマングースの駆除に成功しています。奄美大島よりも小さな八丈島ではイタチの駆除は実現できるかもしれません」と締めくくっていました。



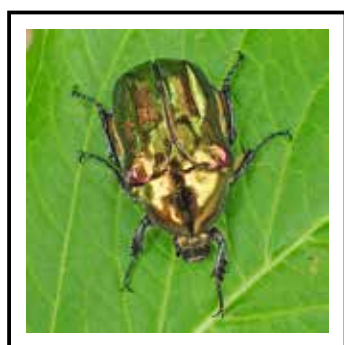
八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きものから季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は1月13日に行いました。

八丈植物公園季節調査（2019年第1回） 調査者：沖山三、青木、沖山美、VC 菊池

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			木本			シダ植物		
1	アオツツラフジ	実が残る	1	アオキ	熟した実	1	イシカグマ	
2	アオノクマタケラン	熟した実	2	アケビ	実が残る	2	オオイタチシダ	
3	アキノノゲシ	花と実	3	イタビカズラ	実	3	オオタニワタリ	
4	アシタバ	花	4	イヌビワ	実	4	オニヤブソテツ	
5	イガガヤツリ	実	5	オオバヤシャブシ	実	5	カニクサ	孢子葉
6	ウスベニニガナ	花	6	オオムラサキシキブ	熟した実	6	シチトウハナワラビ	栄養葉のみ
7	エダウチチヂミザサ	実が残る	7	ガクアジサイ	実	7	タチクラマゴケ	紅葉もみられた
8	オオアレチノギク	蕾	8	シマクサギ	熟した実	8	タチシノブ	
9	オオシマカンスゲ	咲き始め	9	タイミンタチバナ	蕾	9	タマシダ	
10	オニタバコ	花	10	ツルグミ	咲き始め	10	ナチシケシダ	
11	オランダミミナグサ	花	11	トベラ	実が割れる	11	ナチシダ	
12	キツネノマゴ	実	12	ハゼノキ	実と紅葉	12	ノキシノブ	
13	コハコベ	蕾	13	ハチジョウキブシ	花芽	13	ハチジョウカナワラビ	
14	シチトウスミレ	花	14	ヒサカキ	実と蕾	14	ハチジョウシダ	
15	シマテンナンショウ	花	15	ヒメユズリハ	実が残る	15	ヒトツバ	
16	シマバロギク	花	16	ホウライカズラ	実の虫こぶ	16	ホシダ	
17	ススキ sp.	実	17	ホルトノキ	実が残る	17	ホラシノブ	
18	スズメノカタビラ	花	18	マサキ	実	18	マツザカシダ	孢子葉
19	ツルソバ	花と実	19	マンリョウ	熟した実	19	マツバラソ	
20	ツブキ	花と実	20	モチノキ	熟した実	20	マメヅタ	孢子葉が目立つ
21	ノジスミレ sp.	花	21	ヤツデ	若い実	21	ミゾシダ	
22	ハキダメギク	花と実	22	ヤブツバキ	花	22	ヤマイトチシダ	
23	ハナイバナ	花				23	ウチワゴケ	
24	ハルジオン	花						
25	ヒナギキョウ	花と実	<p>今回はシダ植物 23 種を含む 76 種の植物を観察しました。後半になって雨が強く降りだしたため、少し早めに切り上げました。</p>					
26	フウトウカズラ	熟した実						
27	ブラジルコムカンソウ	花と実						
28	ヘクソカズラ	実						
29	ベニバナボロギク	花						
30	ムラサキカタバミ	花						
31	ヤブマオ	実が残る						

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、「リュウキュウツヤハナムグリ」にスポットを当ててみたいと思います。



リュウキュウツヤハナムグリ

Prottaetia pryeri oschimana

コガネムシ科シロテンハナムグリ属。6 亜種に分けられています。八丈島で見られるのは奄美諸島に分布する奄美亜種。翅端部がかなり突き出ているのが特徴です。八丈島では園芸植物に紛れて入り込んだと思われる国内外来種。1985 年が初記録とされています。

6 月から 9 月まで見られ、花や熟した果実などに集まります。

2019 八丈ビジターセンター 2 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
		■ この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります			1 04:32 09:17 14:23 21:40	2 ガイドウォーク 05:02 10:07 15:15 22:17
3 ガイドウォーク 05:29 10:42 15:57 22:51	立春 4 05:54 11:13 16:34 23:22	● 5 06:18 11:41 17:08 23:52	6 06:42 12:09 17:42	7 07:05 12:37 18:15	8 07:28 13:08 18:49	9 ガイドウォーク 07:52 13:41 19:26
10 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会 01:44 08:16 14:18 20:07	11 ガイドウォーク 02:13 08:41 14:52 20:58	12 ○ 02:44 09:09 15:00 21:11	13 ○ 03:22 09:44 16:00 21:18	14 04:24 10:38 17:18	15 04:48 11:13 18:47	16 ガイドウォーク 05:51 12:13 19:03 21:05
17 ガイドウォーク 04:34 09:52 14:56 21:56	18 05:11 10:35 15:52 22:42	雨水 19 ○ 05:45 11:13 16:43 23:25	20 ○ 06:17 11:50 17:31	21 06:47 12:26 18:17	22 07:15 13:04 19:03	23 ガイドウォーク 八文学講座 「春探し 鴨川散歩」 01:17 07:40 13:42 19:51
24 ガイドウォーク 01:49 08:03 14:24 20:42	25 02:17 08:25 14:12 21:45	26 ● 02:44 08:48 14:13 23:30	27 03:08 09:16 17:39	28 10:02 19:18		

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
2/10（13:30～ 約1時間半）
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：15名

八文学講座 「春探し 鴨川散歩」

毎月行っている八文学講座。鴨川の河口周辺から鴨川沿いを散歩します。一緒に春を探しましょう！
2/23（13:30～ 約1時間半）
中学生以上 底土交通広場駐車場集合・解散 参加費：50円 定員：15名

ビデオプログラム

- 10:00～ 八丈・海・生きものたち
 - 11:00～ おじゃりやれ 八丈島
 - 14:00～ おじゃりやれ 八丈島
 - 15:00～ おじゃりやれ 八丈島
 - 16:00～ 八丈・海・生きものたち
- 上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2019.2.1 第213号

開館時間 9:00～16:45 年中無休（入場無料）
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888
E-mail：info@hachijo-vc.com
http://www.hachijo-vc.com

編集後記

イタチのいない八丈小島に上陸するとはオカダトカゲの密度が高いことに驚きます。イタチを根絶し、八丈島も八丈小島を目指していけたらいいですね。さらには、少し増えてきている野良猫の問題も解決しなければいけないですが。（高）